


5 本時（5時間目）の学習指導

- (1) 目標 ・減数が5以下の繰り下がりのあるひき算について、減加法だけでなく減々法の計算の仕方も理解することができる。
 ・自分の計算の仕方を説明したり、友達の考えを聞いたりして、問題によって計算の仕方を選択することができる。

(2) 学習指導課程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 (課) 課題解決能力 (見) 見通し (共) 共感性
1 前時までの計算の仕方を確認し、本時の学習課題をつかむ。	つかむ	<p>13 - 9, 13 - 8, 13 - 7の計算は、10から をひいてと3で というふうに計算したよ。今日はどんな問題かな。</p> <p>13個のお菓子を4個食べると残りは？ 3から4はひけないから..... 10より小さくなりそうだ。</p>	<p>(課) 被減数を13に絞り前時までの計算を復習することで、本時は減数を小さくした場合について考えようという課題意識をもたせる。</p> <p>・「今日は食べるお菓子の数が少ないぞ。はやくて簡単な計算の仕方を考えよ。」というひきざんマンからの挑戦状を提示することで興味付けをする。</p>
2 13 - 4の計算方法を考える。	つくる	<p>13 - 4のはやくて簡単な計算の仕方を考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>10から4をひいて6 6と3で9</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>13から3をひいて10 10から1をひいて9</p>  </div> </div>	<p>(見) 答えは10より小さくなることを確認した上で、ブロックを使ったり、図や言葉をかいたりして計算方法を考えるよう助言する。</p> <p>・計算方法が分からず困っている児童には、ヒントコーナーで具体物の操作をしたり、ヒントカードを利用したりするように知らせる。</p> <p>・できた児童には、他の方法も考えるよう助言する。</p>
3 考えた計算方法を発表し話し合う。	確かめる	<p>習った方法だし、10から4を一度にひくから分かりやすいよ。</p> <p>ばらの3をのけて10にするよ。後は10から1をひくだけだから簡単だよ。</p>	<p>(共) 友達の方法を追体験させた後、それぞれの計算方法のよさを話し合わせ、はやくて簡単な方法はどれかという視点から比較させるようにする。</p>
4 計算方法を選択しながら解く。	ふりかえる	<p>12 - 3, 11 - 4, 14 - 5はどちらの方法がはやくて簡単な。他の式についても考えてみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ひくたすほう</p> <p>15 - 8 12 - 4 13 - 5</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ひくひくほう</p> <p>16 - 7 11 - 2 15 - 6</p> </div> </div>	<p>・練習問題を3問提示し、減加法と減々法を確認すると共に、自分が考えやすい方法を用いればよいことを伝える。</p> <p>・減数が6以上のひき算も含めた10枚の計算カードを渡し、いずれかの方法を選択させることで、より理解が進むようにする。</p>
5 ひきざんマンに手紙を書き、本時の振り返りをする。		<p>問題によって「ひくたすほう」と「ひくひくほう」を使い分けて、はやく簡単に計算ができるようになりたいな。</p>	<p>(評) はやく簡単に計算するために、問題によって減加法、減々法を選択しながら解くことができたか。</p> <p>・ひきざんマンに手紙をかいてポストに入れることで本時の振り返りができるようにする。</p>